

巨理町立荒浜中学校

2014年 11月 21日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 『東日本大震災からの再校—宮城県巨理町立荒浜中学校—』日本大学大学院総合社会情報研究科 桐ヶ窪 牧子
<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~e-magazine/057/essay/essay2.html>

【場所】

海岸から約1km、阿武隈川の河口から約700mの位置にある。

住所:宮城県巨理郡巨理町荒浜東木倉70-1
※現在は同じ場所に新校舎を建設して再開。

【東日本大震災による被害】

津波により校舎の1階天井まで浸水。



【震災当日の様子】

震災当日は卒業式が行われており、午後1時すぎには生徒は全員帰宅した。その約1時間半後、地震が発生、荒浜地区に津波が到達したのは午後4時前後であった。

数百人の地域住民と学校にいた教職員は3階に避難、備蓄食料や毛布もないまま2日間を過ごし、3日目に屋上からヘリコプターで救出された。校舎1階は津波により全壊状態、流れてきた材木や自動車が入り込み、水が引いてからも足の踏み場もない状態であった。

約一週間後、在校生は全員無事が確認されたが、保護者や卒業生、地域住民の中には津波で亡くなった方もいる。
(1)

【調査して言えること】

学校の標高は1mほどで、海岸から約1km、一級河川である阿武隈川から約700m、汽水湖である鳥の海から約500mと三方を水に囲まれた場所にあり、地震の際、津波を警戒する必要のある学校である。

周囲に高台が無く、一番近い標高の高い場所は5kmほど離れており、学校外への避難が難しい学校である。



東から見た学校(2014/10/31撮影)
※震災後に建てられた新校舎。



学校(西から見た海の方角(2014/10/31撮影)
※津波で建物はほとんど無くなっている。